

V. 特記事項

1. 数理・AI・データサイエンス教育の設計及び実施

令和2(2020)年度からスタートした新たな教育プログラム「HIT.E ▶2024」では、従来の数学及び理科を各学科の学びに則した数理科目に変更するとともに、全学部全学科の1年次生が初級レベルのAIやデータサイエンスを学べる「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス入門教育プログラム」を開設している。本教育プログラムは令和3(2021)年6月に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されている。



認定の有効期限：
令和8年3月31日まで

また、令和3(2021)年度から情報学部の学生には「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス応用教育プログラム」を開設し、様々なデータを適切に収集、解析し、AIを活用するためのシステム構築から運用までの流れに関する知識や技術が学修できるよう整備している。

さらに、令和4(2022)年度から情報学部以外の工学部、環境学部及び生命学部の学生にも授業科目「AI・データサイエンス応用」を開設することで、数理・データサイエンス・AIを活用し、社会や企業における課題を解決するための実践的な能力を養っている。

2. 女性技術者としてのエンパワメント及びキャリアに対する支援

女子学生キャリアデザインセンターは、将来の女性技術者育成の観点から、女子学生のエンパワメントを高めるための取組みを推進している。当センターは、平成19(2007)年1月に創設され、女子学生の「社会実践力の育成」「キャリア形成支援」「就業支援」等を15年間以上にわたり継続しており、将来の女性技術者の育成に資する活動を行っている。

主な取り組みは、女子学生に対する自分の強みの理解や進路選択につながるための主体的な経験や体験の機会、経済的や空間的な環境及びサポートの提供や支援である。女子学生主体の活動として、地域や企業などの実社会と関わり、社会とつながりのある問題解決型学修(実践体験型のPBL)を展開している。現在13のプロジェクトを実施中であり、人間力や社会実践力などを身に付ける上で有効な活動となっている。



また、キャリアのデザインやアシストに関するプログラムでは、キャリア形成、就職支援及び職業意識の高揚を図っている。学生の多様性、地域や企業と連携した実社会の課題解決活動、コロナ禍での活動などに手厚く対応するため、全学科と複数の事務部室の教職員から構成される教職協働による支援体制とその環境づくりによって運営している。このような取組みは「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択(平成19年度文部科学省)され、また「第7回女性技術者育成功労賞」(令和3年度一般社団法人技術同友会主催)も受賞し、女性技術者育成の取組みにおいて、一定の成果が得られている。